



安心・こころをつくるまちづくりの「手引き」の手引きをめぐって

防災まちづくりの「手引き」の「手引き」

発行／寺言問を防災のまちにする会

1993.4.1

ホップ／現地視察

好天に恵まれた12月17日、一言会の理事たちは視察のために高田製菓跡地の中に入って見ました。視察は午前と午後2回に亘って行われました。地面の様子、日陰の位置、周囲の建物との関係などを見て歩き、「この部分は陽当たりがいいから、くつろげる広場にしたい」「ここには塀か生け垣が必要だ」「ここには大きな樹を植えたい」など、それぞれ思い思いに利用や整備のイメージを膨らませていました。

「整備するまでの間、開放して子供たちの遊び場としてはどうか」との意見も出されていましたが、用地の中には工場時代の基礎が今も残っており、ポロポロになったコンクリートや煉瓦の基礎から錆びた鉄筋が飛び出していたり、雑草の影に隠れて地面に穴が開いていたり、子供が遊ぶには危険な状態です。整備を開始するまでは、このまま閉鎖しておいた方が良さそうです。

ステップ／講師を招いて勉強会



▶プライム一級建築士 事務所 西島正樹さん



▶子どもとまち研究所の 内藤裕子さん

1月27日の担当理事会では、プライム一級建築士事務所の西島正樹さんと、子どもとまち研究所の内藤裕子さんを招いて、広場づくりの勉強会を行いました。西島さんは、埼玉県蕨市の仁中歩公園を、住民参加のワークショップを通して設計した方です。西島さんが設計した仁中歩公園は、高田製菓跡地と同様に高密の住宅地にあり、住民によるまちづくりの取り組みのひとつとしてワークショップが企画されたそうです。

「夢の公園」と題して、子どもたちに思い思いの絵を描いてもらったり、地面の舗装に使う「デザイン陶板」に町の人たちの手で木の葉を貼り付けたりと、町の人たちと一緒にアイデアを出し合い、紹介してもらい、高田製菓跡地の整備に向けて参考になることがたくさんありました。

内藤さんは、自然の生態系を活かした「エコロジックパーク」について詳しい方で、ロンドンでの整備事例を基にエコロジックパークの考え方について、

①開発によって自然を失ってしまったことへの反省からエコロジックパークが考えられた

②市民のボランティアによって手づくりで整備されている

③主に学校の課外授業など子どもたちの教育の場として利用されている

といったことなどを紹介して頂きました。近年、荒川区の自然公園などが注目を浴びていますが、エコロジックパークをつくるには広大な敷地が必要で、高田製菓跡地につくるのは難しそうです。しかし、考え方は大変参考になりそうです。

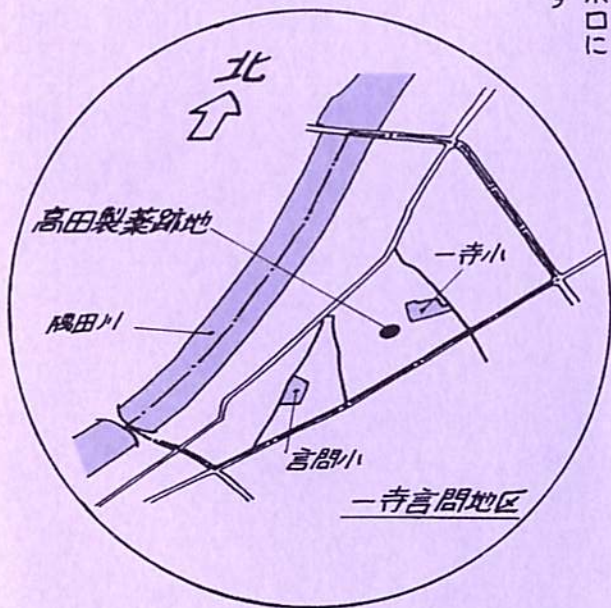
製菓跡地・ただいま検討中 その式



▶工場時代の基礎がポロポロになっただまが残っています



▶隣の家の木の突がきれいでした





▲高田製菓跡地の様子

ジャンプ！ 今後の検討方針

一言会は、今後用地周辺の方々にも相談しながら、担当理事会でワークショップなどを行い、利用と整備のイメージについてたたき台を作成しようと考えています。このたたき台を基に、地域のみなさんのアイデアや意見を出してもらって、具体的な利用策の検討を進めていく予定です。

三とも通り

電柱の移設に併せて路面の整備も

三とも通り担当理事会は、三とも通りを安全に通れる道にしていくために、言問小学校前の部分の電柱移設を検討してきましたが、5年度には実施されることになりました。さらに、「これに併せてガードレールや路面の改良もした方がいいのではないか」との意見が出されたため、引き続き担当理事会では、ガードレールや路面の整備を検討しています。

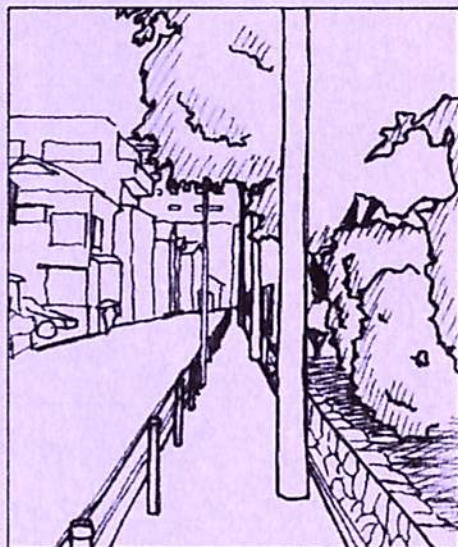
6月に行った見学会での事例も思い出しながら様々なイメージを膨らまし、意見を出し合いました。ガードレールや路面を改良するということは、三とも通り全体の交通問題にどう対処していくかという課題と大きく関わってきます。そのため、「通りの一部分だけがきれいである全くなっても、他の部分が危ないままで効果が少ない」との考えが多いので、言問小学校前の部分は、将来的な三とも通り全体の整備につながる可能性を考えながら検討しようという方針になりました。具体的な整備のイメージについては、ガードレールはやめてボラード(車止



▲通れないよ.....



▲現況



▲電柱の移設で通りやすくなります
さらにガードレールや路面の改良も検討しています

め)にしたい」とか「歩行部分だけカラー舗装にしたい」など色々なアイデアが出されていますが、今後は区と共に、現実的なイメージを検討していくことになっていきます。

私がまちづくりスタッフです

その28

墨田区都市整備部
開発促進室
馬場 玲子さん
(一言会事務局)



九州は福岡県生まれ。都政に憧れて上京。昭和44年、墨田区役所に入庁以来、建築畑一筋。59年には、課長になる。

そもそも馬場さんと一寺言問のかかわりは古く、まちづくりが発足したばかりで、町の住民にまちづくりそのものが、理解されにくかった時、劇団一言座で上演した芝居にも出演するなど、一寺言問に熱いエールを送ってきた。

馬場さんが一寺言問の担当課長になって三年、まちづくりは、住民の理解と協力のもと確信的な成果を上げる「寺島のみち」「金古路「はとほっと」と整備は完成し、建築学会文化賞の受賞、マスコミで一言会の活動が報道されるなど、充実した時期を迎えた。

「今までは、住民と行政がお互の立場を理解した上で、綱の引き合いをしてきた。それでうまくいったのだけれど、これからは、もっと進んで、自分の町は自分で作る。住民の自治を目指して、一言会が脱皮してゆくのが理想だと思う。行政は一步下って、後から応援する。一言会には、その力がある筈ですよ。」

ほっそりした体つきに、髪を短く切って、ボーイッシュとも見える容姿の馬場さん、そのおくに、九州女の情の深さを隠している。(純)

いちでらことい 一寺言問/防災まちづくり瓦版

第30号 平成5年4月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・植竹モト
阿部洋一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局

墨田区まちづくり事業推進部地域整備課内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

平成5年1月15日午後8時6分、北海道釧路市を中心に大きな地震がありました。各地の震度は、釧路6、八戸5、帯広5…。

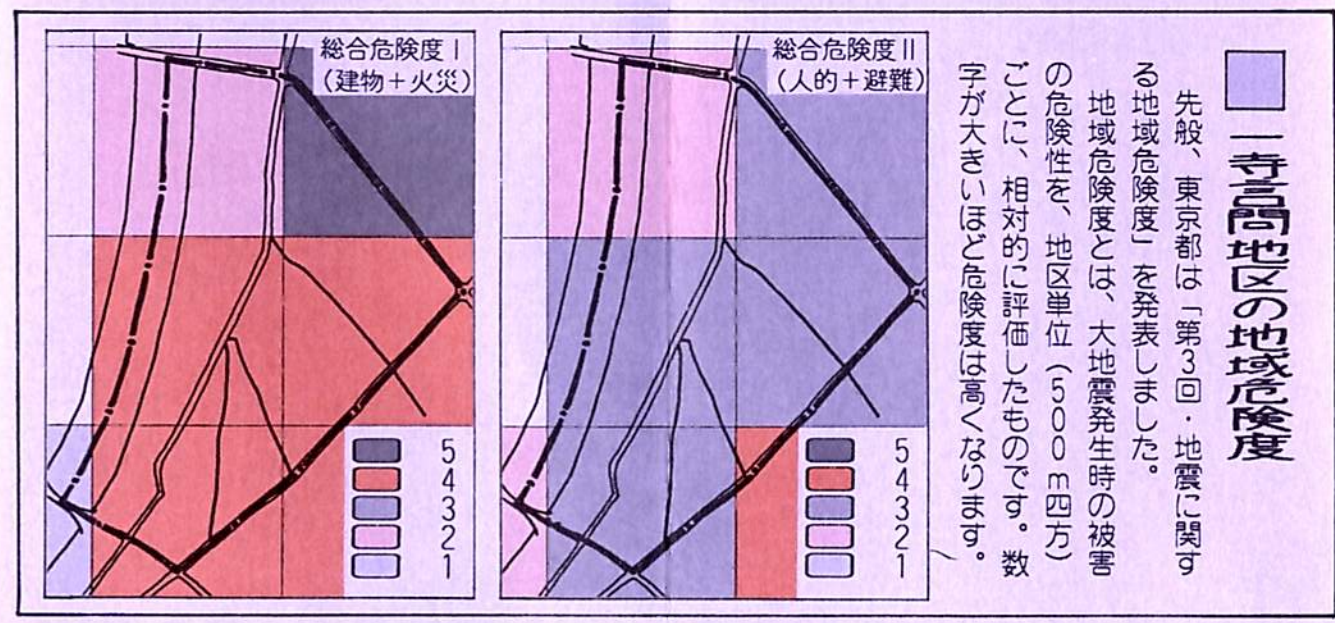
人ごとではない！ 釧路で大地震



この数年、新聞やテレビでサンフランシスコ、フィリピン、イラン、ペルー、トルコなど海外での地震被害のニュースを度々目にしてきましたが、11年ぶりに日本でも震度6の大地震が起きました。この地震は釧路沖地震と名付けられ、地震の規模を示すマグニチュードは7.8と、大正12年の関東大地震の7.9に匹敵する強さでした。

釧路沖地震の直接的な被害は、死者2名、負傷者425名、建物被害40、道路損傷16、橋の被害5、火災7、ガけ崩れ4などです（北海道警察16日午後8時発表）。この他に電気、ガス、水道のストップといったライフラインの被害が大きく、負傷者の内の多くは、ストーブによる火傷や、停電時の暗闇の中で歩きの割れたガラスで足を切った、といったものだったようです。また、断水のため給水車に長い行列ができたり、1か月近くもガスが出なかったり、1か月近くも不自由な生活が続いたそうです。

2月7日にも北陸を中心に震度5の地震が起きました。東京でも画一的な地震が起きました。東京でも画一的な地震庭でも画一的な防犯が起きました。各家方が良くなりました。



向島有季園 2次募集で利用者揃う



▲当選した区画を下見する利用者

前号の瓦版で向島有季園の第5期利用者を募集しましたが、締切りの1月31日までに全14区画の内、半数の利用希望が集まりませんでした。これまでの4回は利用希望の方が多く、毎回抽選で利用を決めていただけに、どう対応したものか、担当理事たちは頭を痛めました。

一言会理事会で対応策を検討した結果、2次募集を行うことになりました。大急ぎで各町会に回覧板を回してもらい、改めて利用希望者を募集したところ、3月10日の締切りまでに、残りの区画分と同数の利用希望が集まって、倍率はちょうど1.0倍。今回は利用抽選はなしで、全員当選となりました。

抽選会が予定されていた2月27日には最初の募集に応募した利用希望者に、希望する区画を選んでもらいました。そして3月13日、2次募集に応募した利用希望者を対象に、残りの区画割りを決める抽選会を行って、全区画の利用者が決定しました。

3月13日、抽選会に引き続き利用者会議が開催されました。今期の利用者は新規と経験者が半分ずつ。皆さん意欲满满で、担当理事や前回の利用者に栽培や害虫対策などについて、念入りにアドバイスを受けていました。この光景を目にして、心配していた担当理事たちもホッと胸をなでおろしました。

区画名	氏名	住所
めじろ	明間 藤子	東向島1-32-9
すずめ	加賀 清	東向島3-15-24
しらさぎ	小林 明人	向島5-48-17
はと	金山浜三郎	向島5-44-10
つばめ	今村 邦人	東向島3-22-3
かもめ	高田けい子	向島5-27-13
せきれい	久保田松子	向島5-49-4
みやこどり	森 富子	向島5-21-7
しじゅうから	細田 幸代	向島5-11-1
ほととぎす	石橋 康人	向島5-34-5
こじゅけい	植竹 モト	向島5-35-14
じゅうまつ	敷浪 静恵	向島5-17-2-202
ちどり	田中 みつ	向島5-30-5
うぐいす	中村ゆき子	向島5-34-3

各区画に新しい「シート」を設置しました

これまで使用していた区画のフレットが老朽化したため、新しく白いアクリル製のフレットを設置しました。裏には、区画名になっている鳥の写真が貼りました。

▲新しくなったフレット



4 環境自治体国際会議が、 会古路地を視察

全世界の自治体を中心として地域レベルから、地球環境問題の解決・改善に向けて努力していこうという、環境自治体国際会議のメンバーが、2月21日に会古路地を視察しました。



5 楽しいひなまつり

言問幼稚園（向島5）では、3月3日にお誕生会を兼ねて、ひなまつりのお祝いをしました。写真は、パネルシアターによる童話劇に見る園児たち（洋）



6 寺島図書館前用地で スタンプ交換会

3月13日、寺島図書館前用地で墨田区商店街連合会のスタンプ交換会が行われました。

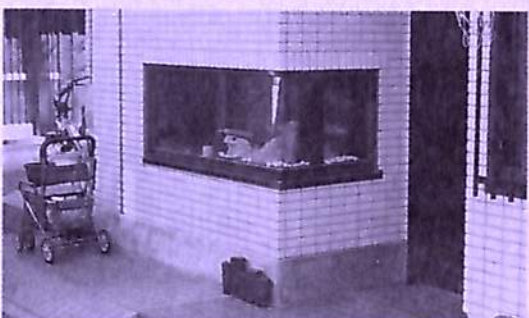


1 白鬚神社で3年ぶりの節分祭 社殿の復興工事により2年間中断していた節分祭が、2月3日に新社殿で行われました。



2 都立大の望月教授、東向島一 丁目の地震対策の実態を調査

1月15日に起きた釧路沖地震の被害を調査していた都立大の望月教授のグループが、都内での地震対策の実態を探るために、木造老朽家屋が密集し、都内でも危険度が高い東向島一丁目周辺を調査しました。



3 「壁の中の坪庭」 景観賞を受賞

墨田区の募集した「粋な街並みコンテスト」で、向島五丁目の中山さん宅、「壁の中の坪庭」が「ちょっとにくい景観賞」を受賞しました。

雪にも負けず—武蔵野市からまちづくり見学



▲「赤富士」の前で記念撮影

1月23日、寒さが厳しく、空から白いものも舞い落ちる土曜日、武蔵野市から西久保二、三丁目地区まちづくり協議会が一言問地区を訪れました。一言問からは会長をはじめ8名が出迎え、百花会館で交流会を行いました。
西久保二、三丁目地区では、まちづくりのルールづくりや、ワンルームマンションの増加などによる環境問題に力を注いできたそう、また最近、まちづくりの輪をどのように広げていくかを検討しているそうです。交流会では、一言会の組織や地域との関わり方、そして向島百花園の環境問題を取り扱った、観月権についての質問が多くありました。

交流会の後には、一同、寒さも忘れて熱心にまちを見学しました。中でも路地等に注目が集まり、「地域にまちづくり

を理解してもらうには、目に見える成果として、路地尊のようなまちづくりの方向性を示す具体的な整備事例が必要なのかもしれない」と、さらなるまちづくりへの意欲を高めていたようです。
朝から舞っていた雪もいつしかあがり、空にもほのかな光が射しはじめていました。

向島百花園の東側用地がきれいになります

東京都が、百花園の拡張用地として取得した土地（旧関根木材用地）が、このほど暫定利用されることになりました。
百花園で栽培される植物や、苗の育成場所等に使用するため、中には入れませんが、百花園通り沿いは、既存の百花園と連続性をもたせた塀にし、その他の部分はフェンスで囲って、外からも緑を楽しめるようになります。
本格的な整備を行うまでには、まだしばらくかかります。東京都では、各園の復活をもちこんだ長期計画に基づき、学識経験者等も含めた調査委員会を設置し、より良い庭園づくりを検討しており、いよいよ、百花園も検討されるようです。



惜しまれつつ「赤富士」が撤去される

一寺小の児童が製作したアルミ缶の壁画「赤富士」は、寺島図書館前用地に設置して以来、世間の注目を集め、新聞各紙でも紹介されてきましたが、強風にあおられて崩れかかるなど、傷みが激しくなったために、2月22日に撤去いたしました。一言会では、次の作品をお待ちしています。